2026年度 第7回（12月）北辰テスト対策 予想問題

国語（制限時間 50分・100点満点）

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

中学三年生の陽菜（ひな）は、一年生のときから、親友の沙織（さおり）と毎日いっしょに帰ってきた。沙織は、父の転勤のため、明日の朝、遠い北の町へ引っ越す。今日は、沙織がこの学校に通う最後の日である。

昇降口を出ると、十一月の風が頬を刺した。二人は、並んで、いつもの道を歩いた。沙織は、きのうのテレビのことや、数学の宿題のことを、いつもと変わらない調子で話し続ける。陽菜は、うなずきながら、その声を、ひとつも聞きもらさないように歩いた。①話すことなら、いくらでもあったはずなのに、陽菜の口からは、一つも言葉が出てこなかった。

道は、やがて、赤いポストのある角に出た。ここで、二人は、毎日、右と左に分かれる。三年間、陽菜は、そのポストの前で、「また明日。」と言って手を振ってきた。沙織も、同じ言葉を返した。

ポストの前で、沙織が足を止めた。陽菜も止まった。風にあおられて、街路樹の枯れ葉が、二人の足もとをかさかさと転がっていった。

「……また明日、って、言えないんだね。」

沙織が、笑おうとして、うまく笑えないまま言った。②陽菜は、とっさに、ポストの赤い口に目を向けた。

「……うん。」

声が、のどの奥でひっかかった。

「あのさ。」

沙織は、かばんの中から、一冊の古いノートを取り出した。表紙には、色のうすれた油性ペンで「帰り道ノート」と書かれている。一年生の冬、二人が退屈しのぎに始めた、しりとりや、その日のくだらない出来事を書きつづるノートだった。

「これ、ずっと私が持ってたでしょ。最後のページ、まだ白いんだ。陽菜が持ってて。次に会うときに、いっしょに書こう。」

陽菜は、差し出されたノートを、すぐには受け取れなかった。受け取ったら、今日が本当に終わってしまう気がしたのだ。③けれど、陽菜は、両手を伸ばして、ノートをしっかりと受け取った。

「じゃあ、行くね。」

「うん。」

「また明日、じゃなくて、……またね、だよ。」

「……うん。またね。」

沙織は、左の道へ歩き出した。陽菜も右の道へ足を向けたが、一歩ごとに、胸に抱いたノートの角があたる。角を曲がる前に、ふり返った。沙織は、まだ道の先に立って、こちらを見ていた。

④陽菜は、胸にかかえていたノートを左手に持ちかえ、右手をゆっくりと大きく上げた。長くのびた二つの影が、遠くはなれているのに、ポストの足もとで重なって見えた。

（注）転勤（てんきん）……会社などで、同じ組織のなかの別の土地や部署に勤め先が変わること。退屈しのぎ（たいくつしのぎ）……することがなくて時間をもてあますのを、まぎらわすこと。

問1 ①「話すことなら、いくらでもあったはずなのに、陽菜の口からは、一つも言葉が出てこなかった」とありますが、このときの陽菜の様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア 沙織が明るく話し続けることに腹を立て、わざと黙っている様子。
イ 話す話題がなくなり、沙織との間に気まずさを感じている様子。
ウ 別れが近づくさびしさで胸がいっぱいになり、伝えたいことがあっても言葉にできずにいる様子。
エ 沙織の転校をまだ知らず、いつもと同じ帰り道を楽しんでいる様子。

問2 ②「陽菜は、とっさに、ポストの赤い口に目を向けた」とありますが、このときの陽菜の気持ちを説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア 泣き出しそうになるのをこらえ、沙織の前では涙を見せまいとする気持ち。
イ 沙織の言葉に腹を立て、顔を見たくないと思う気持ち。
ウ ポストの形が気になり、沙織の話への興味を失った気持ち。
エ 別れをさびしいとは感じず、いつもどおり帰ろうとする気持ち。

問3 沙織は「これ、ずっと私が持ってたでしょ。最後のページ、まだ白いんだ。陽菜が持ってて。次に会うときに、いっしょに書こう。」と言って、ノートを陽菜にわたしました。沙織がそのようにしたのはなぜですか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、約束、続き の二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

問4 ③「けれど、陽菜は、両手を伸ばして、ノートをしっかりと受け取った」とありますが、このときの陽菜の気持ちを説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア ノートを受け取ることで、沙織のことを早く忘れようとする気持ち。
イ 断ると沙織に悪いと思い、しかたなく受け取っている気持ち。
ウ ノートの中身が気になり、一刻も早く読みたいと思う気持ち。
エ 別れはつらいが、また会える日を信じて、沙織との約束を受け止めようとする気持ち。

問5 ④「陽菜は、胸にかかえていたノートを左手に持ちかえ、右手をゆっくりと大きく上げた。」で始まる、本文の結びの二つの文には、どのような効果がありますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア影が重なる様子を描くことで、二人の別れが完全に終わったことを強調している。

イ手を大きく上げる動作と、遠くはなれても重なる影を描くことで、離れていても二人の心はつながっていることを印象づけている。

ウタ日の描写で、沙織への怒りがまだ消えていない陽菜のいらだちを表している。

エ陽菜が沙織にあいさつできないまま、立ち去ったことを示している。

問6 本文の表現や構成について述べた文として適切でないものを、次のア～オの中からすべて選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア「枯れ葉が、二人の足もとをかさかさと転がっていった」という描写は、別れの場面のさびしい雰囲気を表している。

イ「笑おうとして、うまく笑えないまま言った」という描写から、沙織もさびしさを感じていることが読み取れる。

ウ陽菜が、転校することを黙っていた沙織に対して、怒りをぶつける場面が中心に描かれている。

エ「帰り道ノート」は、二人が重ねてきた時間を象徴するものとして描かれている。

オ結びでは、別れのさびしさが完全に消え、二人の関係が終わったことが描かれている。

2

問1(1) 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。（各2点）

新しい環境になじめず、自分の去就を決めかねている。（読み）

問1(2)（各2点）祖父は歴史に関して博識で、何を聞いても答えてくれる。（読み）

問1(3)（各2点）危険な場面でもイサましく行動した消防士が、表彰された。（書き）

問1(4)（各2点）決められた規則をキビしく守るように、先生から指導された。（書き）

問2 次のア～エの文の――部「そうだ」のうち、ほかから聞いた内容を伝える意味（伝聞）で使われているものを一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア空が暗くなり、今にも雨が降り出しそうだ。

イこのカレーは、見るからに辛そうだ。

ウ天気予報によると、あすは大雪になるそうだ。

エ弟は、今にも泣き出しそうだ。

問3 次のア～エの文の――部「た」のうち、存続（～ている）の意味で使われているものを一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア壁にかかった絵を見上げる。
イ昨年の夏、家族で海へ行った。
ウちょうど今、宿題が終わった。
エそういえば、あしたは当番だった。

問4 次の場面にあてはまることわざとして最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

明日が提出の自由研究が、まだ半分も終わっていない。夜に三十分だけ取り組んだが、残りの量が多すぎて、ほとんど進んだように思えなかった。（3点）

ア二兎を追う者は一兎をも得ず
イ猫に小判
ウ焼け石に水
エ立つ鳥跡を濁さず

問5 次の文の〔　〕にあてはまることわざとして最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ずっと探していた消しゴムが、自分の筆箱の中にあった。まさに〔　〕だ。（3点）

ア猿も木から落ちる
イ棚からぼたもち
ウ花より団子
エ灯台下暗し

問6 ことわざ「藪をつついて蛇を出す」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア小さなきっかけから、大きな成功を手にすること。
イ余計なことをして、かえって自分から困った事態を招くこと。
ウ危険を承知で、あえて立ち向かうこと。
エ取るに足りないことを、大げさに騒ぎ立てること。

問7 ことわざ「情けは人のためならず」の本来の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア人に親切にしておくと、めぐりめぐって、いずれ自分にもよい報いがあるということ。
イ人に情けをかけると、その人のためにならず、かえって甘やかすことになるということ。
ウ情けをかけるなら、相手をよく選んでからにするべきだということ。
エ人から情けをかけられても、自分のためにならないので受けとってはならないということ。

問8 K中学校の放送委員会では、お昼の放送で流す曲について話し合っています。次の【話し合いの様子】を読み、〔　Ⅰ　〕にあてはまる司会の発言として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

【話し合いの様子】

司会「お昼の放送で流す曲について、意見を出してください。」

石川「みんなが知っている流行の曲のほうが、盛り上がると思います。」

森「ただ、学年によって知っている曲がちがうので、聞いたことがなくて楽しめない人も出ませんか。」

司会「〔　Ⅰ　〕。では、曲を選ぶときの基準をいくつか決めてから、候補を出し合いましょう。」

ア石川さんの意見は、流行の曲をすべて外すという意見ですね。

イ盛り上がることと、だれもが楽しめることの、両方を考える必要があるという意見が出ましたね。

ウ曲は流行のものだけで決まるので、森さんの意見は取り上げなくてよいということですね。

エ学年によって知っている曲がちがうので、放送は取りやめにするということですね。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

学校のテストでは、問題を解いて「正解」を出すことが求められる。だから私たちは、いつのまにか、学ぶとは正しい答えを手に入れることだと思いがちである。①しかし、答えを手に入れたとたんに、考えることをやめてしまう人は少なくない。

たとえば、理科の授業で「氷は水に浮く」と習ったとする。教科書にそう書いてあるから、覚える。テストでも書ける。けれども、「では、なぜ氷は水に浮くのか」と問い返されたとき、すぐに答えられる人は多くない。②知っていることと、わかっていることは、同じではないのである。

問いを持つ人は、ちがう。一つの答えにたどり着いても、「では、この場合はどうなるのか」「本当にいつもそうなのか」と、次の問いを立てる。問いは、答えの終点ではなく、次の学びの出発点になる。③よい問いは、答えを一つ得るたびに、わからないことの数を、むしろ増やしていく。それは一見、遠回りに思える。しかし、わからないことが増えるのは、見える範囲が広がった証拠なのだ。

知識を一つの円にたとえてみよう。円の内側が「わかっていること」、外側が「わからないこと」である。学びが進んで円が大きくなると、外側と接する境目も長くなる。つまり、④知識が増えるほど、「わからない」と出会う場所も増えるのである。

だから、「わからない」ことを恥じる必要はない。大切なのは、わからなさを放置せず、問いの形にして持ち続けることだ。答えを急がずに問いを抱え続けた人は、やがて、ひとりでは見つけられなかった答えに出会う。学ぶとは、答えを集めることではなく、問いを育てていくことなのだ。

（注）放置（ほうち）……そのままにして、ほうっておくこと。　一見（いっけん）……ちょっと見ただけでは。ひと目見たところでは。

問1 ①「しかし、答えを手に入れたとたんに、考えることをやめてしまう人は少なくない」とありますが、筆者は、そのような人が少なくないのはなぜだと考えていますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア答えが手に入ると、すべての問題が解けるようになるから。

イ考えることが苦手な人が、学校には多いから。

ウ学ぶとは、正しい答えを手に入れることだと思いがちだから。

エテストの問題には、答えが複数あることが多いから。

問2 ②「知っていることと、わかっていることは、同じではない」とありますが、本文で、このことの例として挙げられているものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア「氷は水に浮く」と覚えていても、なぜ浮くのかと問われると、すぐには答えられないこと。

イテストで正解を出すために、教科書の内容をくり返し書いて覚えること。

ウ理科の授業で、先生が出した問題に、全員が正解を答えられたこと。

エ氷が水に浮くことを、教科書で習う前から知っていたこと。

問3 ③「よい問いは、答えを一つ得るたびに、わからないことの数を、むしろ増やしていく」とありますが、筆者は、わからないことが増えるのを悪いことではないと考えています。それはなぜですか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、範囲、証拠の二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

問4 ④「知識が増えるほど、『わからない』と出会う場所も増える」とありますが、筆者は、なぜそのように言えると述べていますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア円の内側のわかっていることが増えると、外側のわからないことが、そのぶん減るから。

イ知識を円にたとえると、円が大きくなるほど、外側のわからないことと接する境目が長くなるから。

ウ円が大きくなると、円の内側にも新しいわからないことが生まれるから。

エ知識が増えると、円の外側が見えなくなり、わからないことに気づきにくくなるから。

問5 本文の構成や表現について述べた文として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア筆者が学校生活で体験した出来事を、順を追って詳しく語ることで、主張の根拠にしている。

イ「たとえば」を用いて、理科の授業での氷の例を挙げ、主張を具体的に示している。

ウ円のたとえを用いて、知識とわからないことの関係をわかりやすく示している。

エ最終段落を「だから」で始め、ここまでの内容を受けて筆者の考えをまとめている。

問6 本文全体の内容に合う筆者の考えとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア学びとは、できるだけ早く正しい答えを手に入れて、わからないことを減らしていくことである。

イわからないことが多いうちは、恥ずかしいので、人前で問いを立てないほうがよい。

ウ問いを立てると、わからないことが増えるので、答えを覚えることだけに集中するべきである。

エ学びとは、答えを集めることではなく、わからなさを問いの形にして持ち続け、問いを育てていくことである。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（カッコ内は口語訳です。口語訳をつけていない部分もあります。）（16点）

昔、ある里に、笛の上手ありけり。年若けれど、その音色の美しきこと、里に並ぶ者なし。（昔、ある里に、笛の名人がいた。年は若いけれど、その音色の美しいことは、里に並ぶ者がなかった。）人々ほめそやしければ、①「われに及ぶ者は、あるまじ。」とおごりて、師の教へも聞かずなりぬ。

師、これを見て、何も言はず、ある夜、弟子を連れて山に入りぬ。（師は、これを見て、何も言わず、ある夜、弟子を連れて山に入った。）谷のあなたより、笛の音かすかに聞こゆ。弟子、「これは誰が吹く笛ぞ。」と問へば、師、「里の木こりの吹く笛なり。」と答ふ。（谷の向こうから、笛の音がかすかに聞こえる。弟子が、「これはだれが吹く笛ですか。」と尋ねると、師は、「里の木こりが吹く笛だ。」と答えた。）

その音、さのみ巧みならねど、②心にしみて、思はず涙ぐみぬ。

師のいはく、「汝が笛は巧みなれど、人に聞かせんとのみ思ひて吹く。かの者は、ただ己が楽しみに吹く。③巧みなるは人の耳を驚かし、心あるは人の胸を打つ。」と。弟子、④恥ぢ入りて、その後、おごる心をば捨てけり。

（注）上手（じょうず）……ある道にすぐれた人。名人。師（し）……先生。ここでは、笛を教える人。木こり（きこり）……山で木を切る仕事をする人。汝（なんじ）……おまえ。あなた。

問1 ①「『われに及ぶ者は、あるまじ。』とおごりて」とありますが、このときの笛の上手の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア師に教えてもらいたいと、へりくだる気持ち。

イ自分にかなう者はいないだろうと思い、うぬぼれる気持ち。

ウ人々にほめられて、はずかしく思う気持ち。

エ自分より上手な者がいると知って、くやしく思う気持ち。

問２②「心にしみて、思はず涙ぐみぬ」とありますが、弟子がそうなったのはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（４点）

ア木こりの笛が、自分よりもはるかに巧みだったから。

イ山の夜が暗く、師に叱られるのではないかと不安になったから。

ウ木こりの笛は、特別に巧みではないが、心がこもっていて、聞く人の胸に深く届いたから。

エ木こりが、弟子の笛をほめてくれたから。

問３③「巧みなるは人の耳を驚かし、心あるは人の胸を打つ」とありますが、師は、この言葉でどのようなことを教えようとしていますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（４点）

ア技の巧みさだけでなく、心をこめることが、人を感動させるうえで大切だということ。

イ技を磨くより、笛を吹く回数を増やすほうが大切だということ。

ウ人に聞かせるときは、できるだけ大きな音で吹くことが大切だということ。

エ木こりの笛のほうが、いつでも弟子の笛より優れているということ。

問４④「恥ぢ入りて」とありますが、弟子が恥ぢ入ったのは、師の言葉によって、自分の笛についてどのようなことに気づいたからですか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、現代語で十字以上、二十字以内で書きなさい。（４点）

（以上で問題は終わりです。）